

C. 6 年 追 跡 研 究

戸 蒔 進 織田 長繁 服部 晴子
富田 昇 三谷みちゑ 渥味 久子

I 附中から附高への6年の学習成績変化の追跡(その7)

戸 蒔 進

はじめに

第5報、第6報ともに、印刷費の急騰に災いされて、きびしい頁数の制約から、その年度内の研究成果を要約して発表することさえ不可能となり、一応、各年度の研究のあらましを冒頭にレジュメ式に報告し、以下は、未発表の前年またはさらにそれ以前の資料を、まとめて報告するという形式をとってきたが、所詮資料の印刷を制約されたレジュメは物欲しげな予報的なものに留まらざるを得ず、従らに貴重な頁数を浪費するの愚に通ずることに気付き、今回からは、その種のもの的一切カットし、累積した手許のデータを、次々と発表してゆくことに肚を決めた。

国語科の関連図表

第5報の英・数、第6報の理・社に続く、所謂5教科の残された一つである国語科の、中・高学習成績関連図表を、報告する。研究対象は、既報の英・数・社・理と全く同じ、昭和39～41年度に附中に入学、昭和45～47年度に附高を卒業した生徒男女併せて約200名である。

既報の英数社理の関連図表と対比してみると、理数とは、非常に異ったパターンであると同時に、英・社については、ある段階ではかなり高度の類似が看取されたことは、非常に興味のあることである。以下その要点を簡条書きに列挙する。

(1) 学年別に観た特徴

1) 中1と高校の成績型との関連

- 5ランクの者のパターンは他のどの教科とも全く異なる特異なもの。
- 3ランクの者のパターンは英語のそれと、かなり近似。男女とも5～1ランクに分散してゆく可能性(危険性も)を持つが、上昇の可能性の方が大きい。
- 4, 2, 1ランクの者のパターンは、3程ではないが、かなり英語のそれと類似。ただ4ランクについては、絶対数は英語より少ない。

2) 中2までと、高校の成績型との関連

- 5ランクについては、中1の場合と同様、他のどの教科とも全く異なる。

● 4, 3ランクの者のパターンは、社会科のそれと大変よく似ている。それに次いで英語にも近似。ただし英語の場合と異り、高校で5ランクに上昇する可能性はなくなる。

● 2ランク以外に女子は一人もいなくなる点は、他のどの教科にも見られない特徴。

● 2ランクの男子のパターンは英語のそれと酷似。3)中3までと、高校の成績型との関連。

● 5ランクは男子では社会科のそれに類似。女子の方は、英語のそれとかなり高い類似。

● 4ランクは男・女ともに社会科と酷似。それに次いで英語との類似がかなり高い。

● 3ランクは男・女ともに社会科・英語科と同じくらいに近似。

● 2ランク以下に女子はなし。

● 2ランクの男子のパターンは他教科と全く異なる完全下向型。

(2) ランク別に観た高校の成績型との関連

● 5ランクに属する生徒は、1～3年とも、4, 5両ランクに分散し、3ランク以下にはならない。

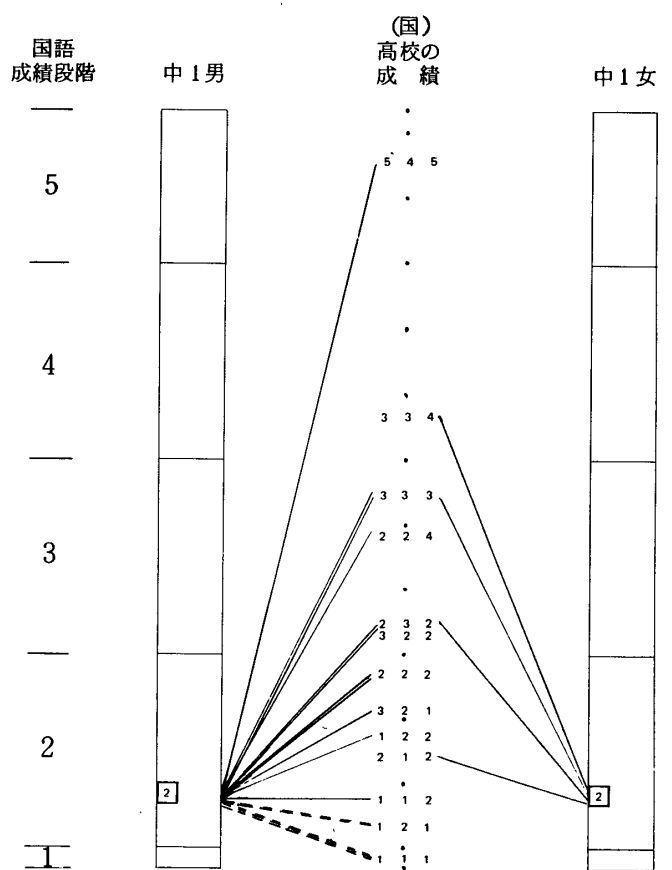
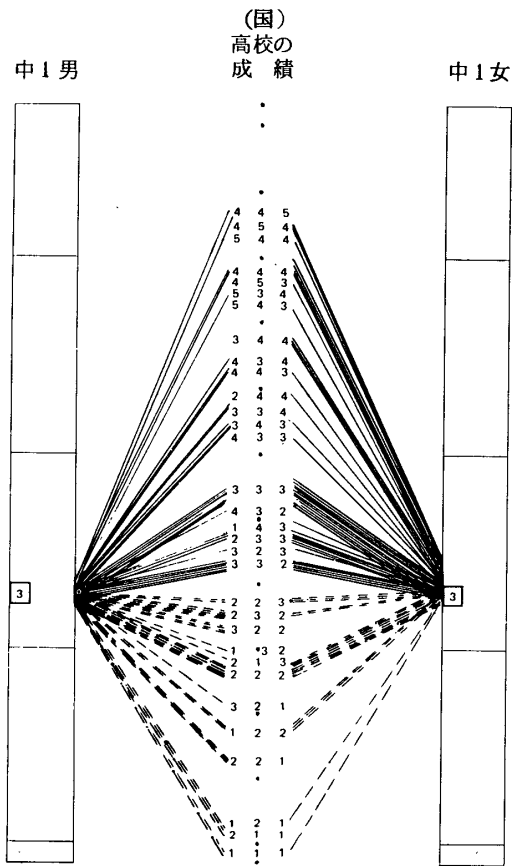
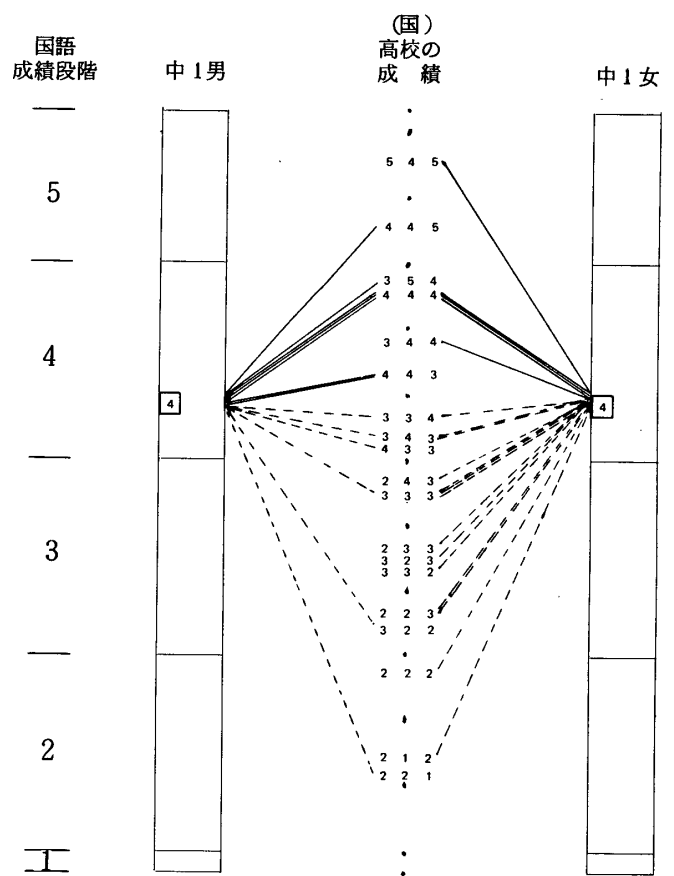
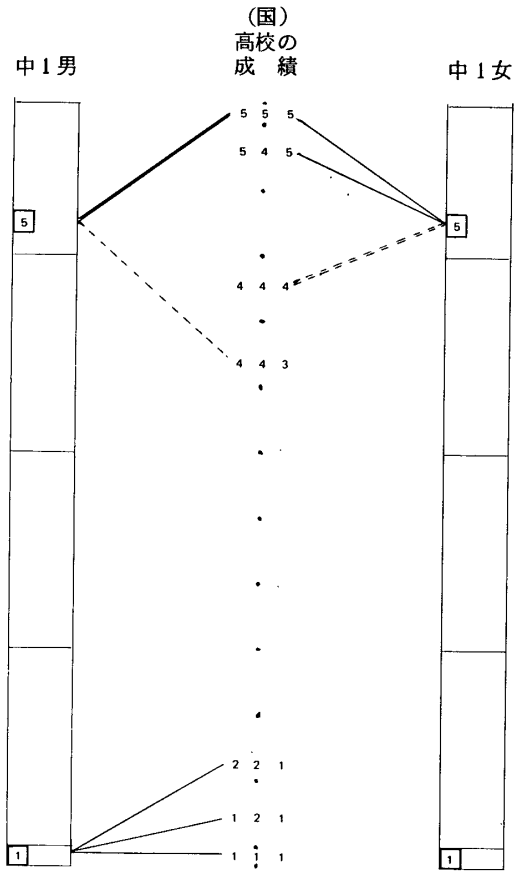
● 4ランクに属する生徒は、1～3年とも大差ない比率で5～2ランクに分散。可能性と共に危険性も決して少くない。

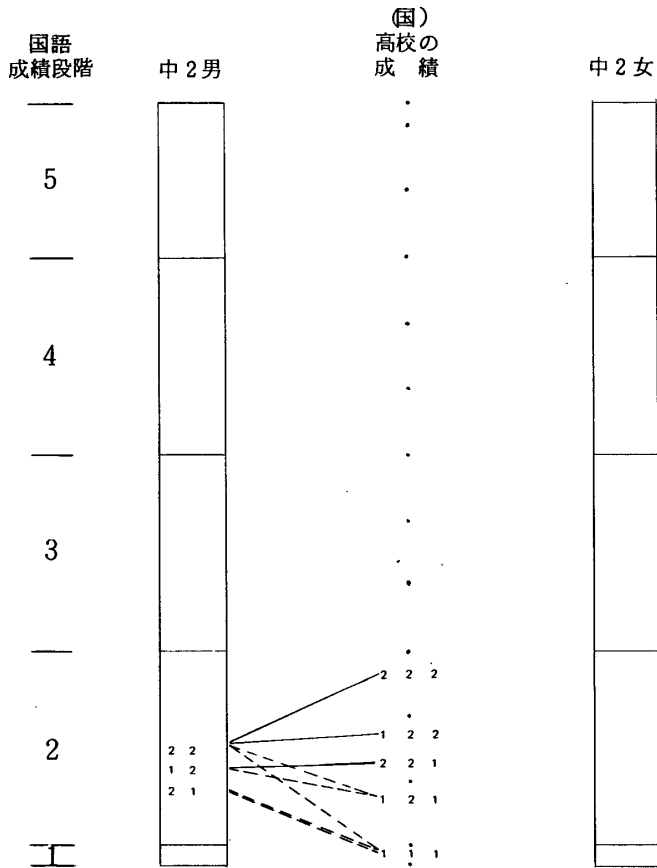
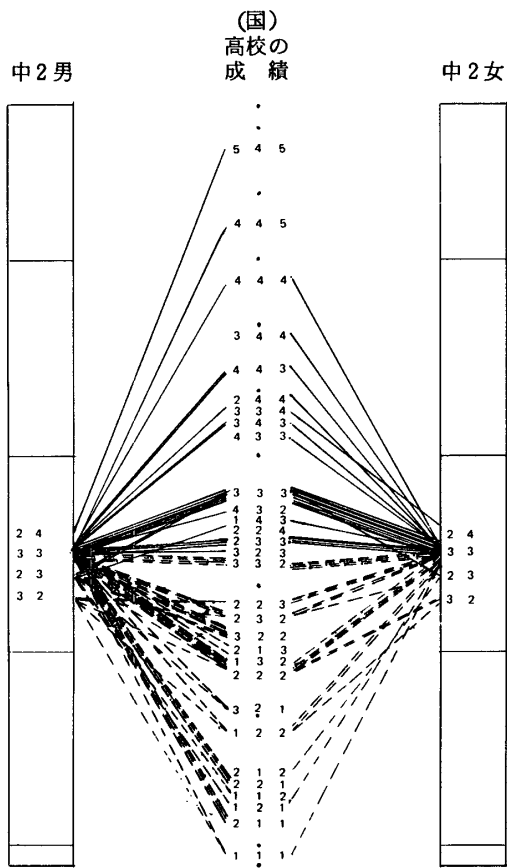
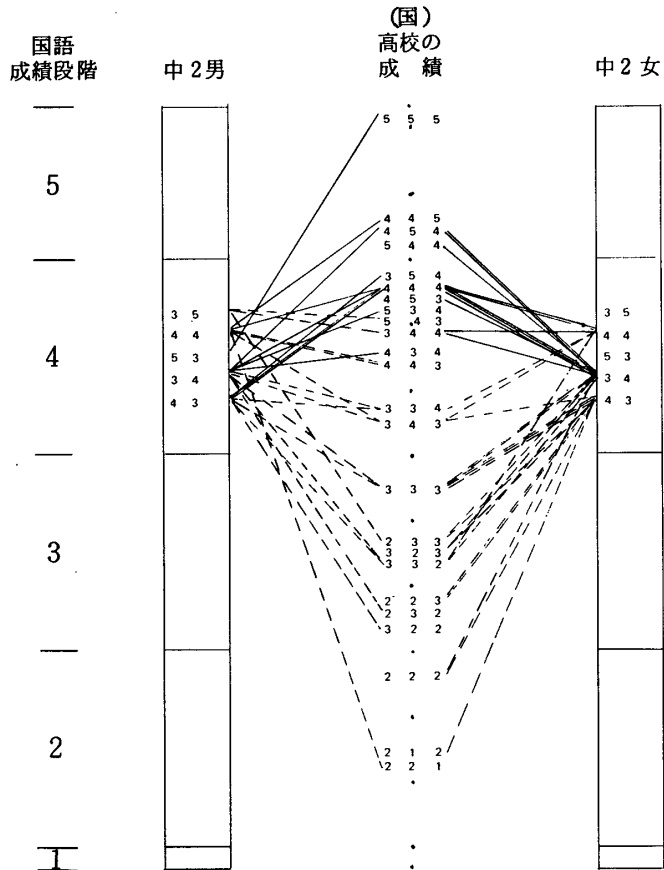
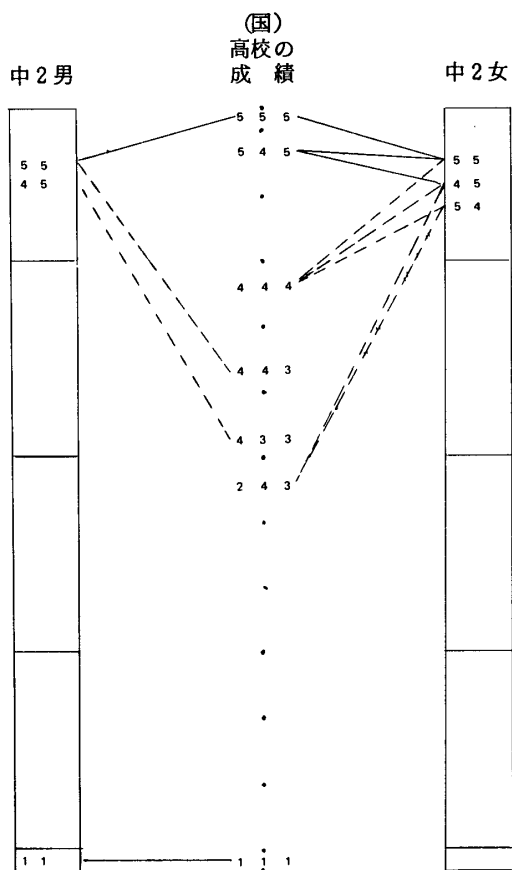
● 3ランクに属する生徒は、1年に比し2年では5ランクに入る可能性は激減、中3で3ランクに属する場合は、高校で5ランクに入った例なし。また中2でも3ランクに属する場合は、高校では下向の危険率の方が上昇の可能性を上回り、中3で3ランクに属する場合下向の危険率は、中2より急激に増大。

● 2ランクに属する生徒は、女子については中2、中3ではゼロになるが、高校では、逆戻りしている例もあり、決して安定したと言えるものではない。男子については、絶対数が中2でミニマムとなり、中3では再び増加。そして中3で2ランクに属する者については、それ以後の下向は決定的なものとなることは大いに注目しなくてはならないと思う。

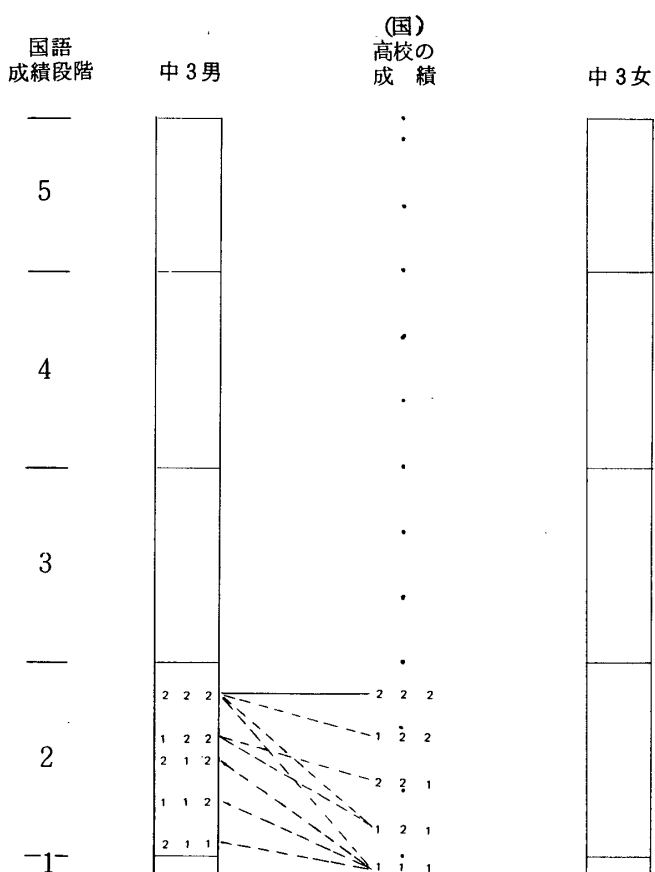
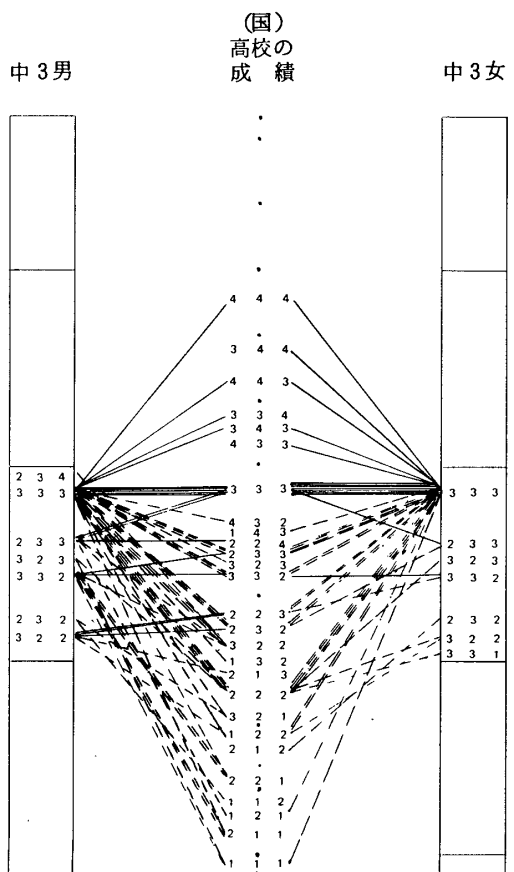
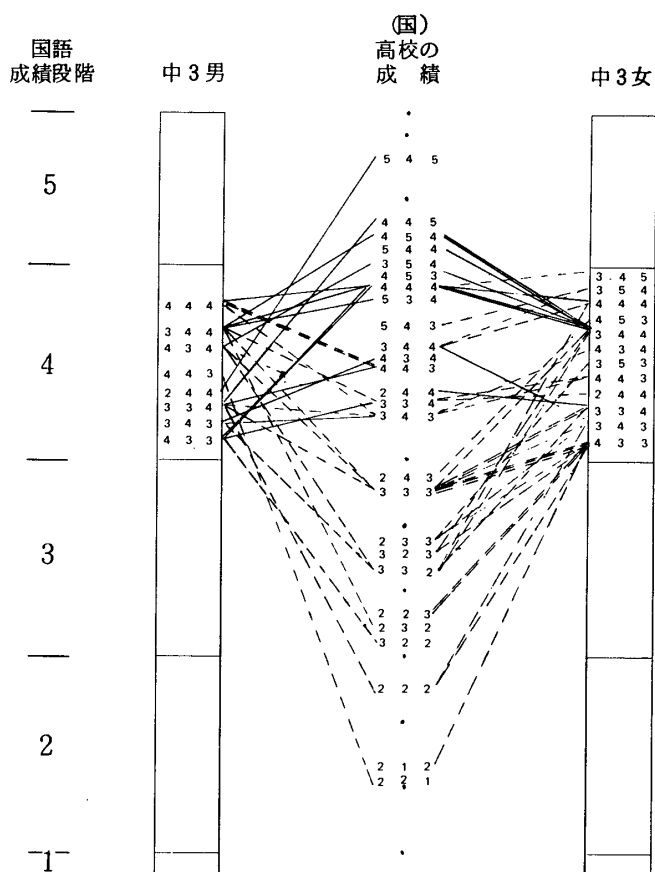
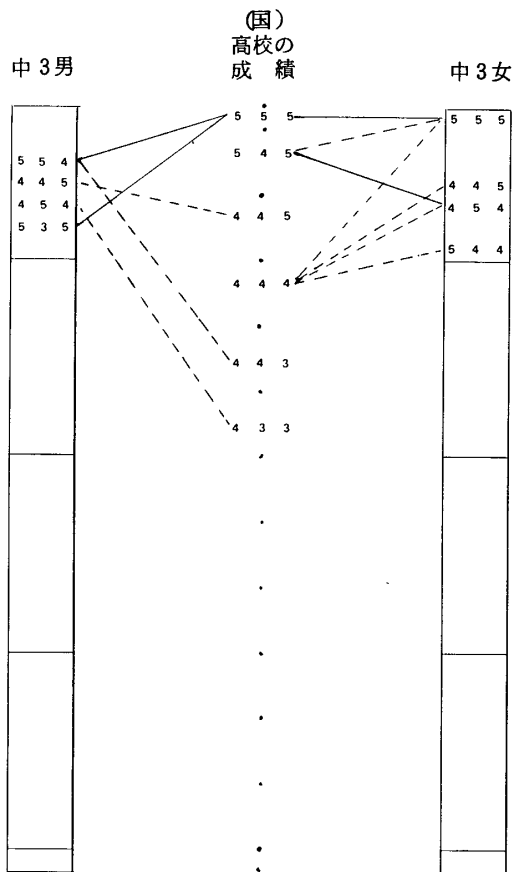
以上を総合して考えると、国語のパターンは、社会科・英語との類似度の高さが認められるが、より正し

附中から附高への6カ年の学習成績変化の追跡 (その7)





附中から附高への6カ年の学習成績変化の追跡 (その7)



くは、主客を入れかえた、社会科や英語の学習成績パターンは、国語に類似度が高いと表現すべきようになって、国語の基礎力が、中学一年の段階から英語や社会科の学習成績を左右する大きな要因となっていると共に、その大切な国語の基礎学力が、中以下の成績の者については、中3までに決定的なものとなることは、関係者に充分認識して頂きたいものである。

50年度卒業生全科成績関連図表の比較検討

本年3月附高を卒業した名中の69名は、われわれが研究の第3年目と4年目(生徒にとっては、中2と中3の2年間)にわたって、直接に教科の面は勿論H.Rの指導の面でも軌道修正的な指導を試みた最初の学年であっただけに、その学習成績変動の最終的な結果には、一層深い関心(と、いささかのおそれ)を持って処理し、関連図表にまとめ上げた。ここでは、紙数の関係で、全科総合の成績についてのもののみを報告する。

関連図表は次頁のとおりであるが、これを第4報^{***}で既報の昭和39~41年度に附中に入学、44~46年度に附高を卒業した生徒182名についての関連図表と対比して得た両者間の中学よりも高校で成績が向上した者の比率を表にまとめたのが、下に示したものである。この表から言いうることは、次のようなことと考えられる。

●女子については、総ての段階において、50年度卒業生の伸びの方が、44~46年卒よりもかなり優位に

ある。

- 男子については、残念ながら逆であった。ただ、2ランクについては僅かに同一比率であったが。
- 男女を合計すると、中学で4ランクの者の伸びだけが50年度卒業生の方が劣るが、他は、何れも優位にある。

以上を総合して考察すると、実は中2の担任を引き上げた時点から、教官の間では、今迄に見たことのない女性上位の学年との一般的評価があり、担任団としては、ひそかに、何とかしてこの通念をくつがえしてみたいものと、その面でも相当な努力をしたつもりであるが、結果は、その面の努力が不成功であったことを示しているのは残念なことである。

しかしながら、女子に関する限り、われわれの「高校になってからではおそすぎる、中学の段階で確実な軌道修正を」とのねらいでの取り組みは、一応それなりの成果を挙げる事ができたと評価することが許されるように思う。特に最下位の2ランクの女子3名の全員が高校に進んでから成績が向上しているという成果は、落ちこぼれを一人でも少なくと、かなりの努力を傾注したおぼえがあるだけに、喜ばしく感じる次第である。

* 戸荻 進 附中から附高への6ケ年の学習成績変化の追跡(その5)

名大教育附中高紀要第19集

** 戸荻 進 同上(その6)名大教育附中高紀要第20集

*** 戸荻 進 同上(その4)名大教育附中高紀要第18集

区分	性別 上昇率	5			4			3			2			合計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
44 ↓ 46 年度 卒	上昇a	6	0	6	14	8	22	15	8	23	3	1	4	38	17	55
	a/b	0.67	0	0.33	0.39	0.23	0.31	0.32	0.22	0.27	0.5	0.33	0.44	0.39	0.20	0.30
	総数b	9	9	18	36	35	71	47	37	84	6	3	9	98	84	182
a/bの比較		∇	⋈	∧	∇	∧	∇	∇	∧	∧	∇	⋈	∧	∇	⋈	∧
50 年 度 卒	上昇a	1	3	4	0	5	5	3	5	8	3	3	6	7	16	23
	a/b	0.5	0.5	0.5	0	0.33	0.22	0.20	0.36	0.28	0.5	1.0	0.66	0.23	0.42	0.33
	総数b	2	6	8	8	15	23	15	14	29	6	6	9	31	38	69

附中から附高への6カ年の学習成績変化の追跡 (その7)

